

# 平成22年度事業評価シート(ソフト事業)

## 1 事業名等(Plan 1)

事業名	コンベンション開催支援事業											
所属名	商工観光部 観光課 企画・経営グループ											
第七次総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	分野	1	観光	基本施策	2	多くの人々に地域の魅力を知らせてもらう	施策	1	戦略的な誘客宣伝
予算科目	2	1	9	企画費	費	20905	企画関係事務費の負担金補助及び交付金	コンベンション開催支援補助金のみ	事業			
					費				事業			
					費				事業			
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等	高山市コンベンション開催支援補助金交付要綱											
事業の実施主体	○ 市 市以外→											
事業の実施方法	直営 指定管理 業務委託 ○ 団体等補助 その他→											

## 2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	コンベンション開催団体および市民	受益者数	人		
目的	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	国際会議等の開催による交流人口の拡大、学術文化の振興および地域経済の活性化を図る				
概要	事業の実施手法、手順	開催支援補助 国内参加者 1,000円/人 国外参加者 10,000円/人 (飛騨地域を除く参加者50人以上の会議)				
	事業始期・終期	始期	年度から	始期	年度まで	設定なし
今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入 飛騨・高山観光コンベンション協会と連携し、国際会議の場合に歓迎の意味を含めて、市長ないし副市長の挨拶などを提案し、市全体の支援を行っている。					

## 3 事業費の推移・結果(Do)

【コスト面】		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
区分							
総合計画計画額(当初)		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
総合計画計画額(計画額)		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
事業費	予算額	10,000	10,000	10,000			
	(計画・予算・見込・決算額)	10,171	5,747				
財源	国庫支出金	予算額					
		決算・見込					
	県支出金	予算額					
		決算・見込					
	地方債	予算額					
		決算・見込					
	受益者負担	予算額					
		決算・見込					
	繰入	予算額					
		決算・見込					
一般財源	予算額	10,000	10,000	10,000			
	決算・見込	10,171	5,747				
H17国勢調査 96,231人 32,174世帯 ※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価							
コスト指標	受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位	%				
	市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位	円/人	106	60		
	1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位	円/世帯	316	179		
	受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位	円/人				
! その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)							

## 【成果面】

活動・成果指標	活動指標	投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標	指標名	コンベンション参加者数(飛騨地区在住者除く)	資料・出展算出式	過去4年間の参加者数合計 / 4年	単位	人
	活動指標							
	活動指標							
	活動指標							
成果指標	成果指標	活動やサービスを行った結果、市民にどのような影響(効果)をどれだけ与えたかを表す指標	指標名	コンベンション開催数	資料・出展算出式	過去4年間の開催数 / 4年	単位	件
	成果指標							
	成果指標							
	成果指標							

## 4 分析・評価(Check)

**①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)**

(現状及び判定理由) 第一四半期のコンベンション開催件数はほぼ例年並であるが、国際会議の件数は増加していることから、交流人口は徐々に拡大傾向にある。今後も国際会議を含めたコンベンションを予定しており、必要性が高い。

目的評価

A: 非常に高い

B: 高い

C: 低い

D: 非常に低い

**A**

---

**②コスト面評価(事業費の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)**

該当項目「1」入力(注:平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)

減少		維持	1	増加	
----	--	----	---	----	--

(判定理由)

項目

②コスト面

	増加	維持	減少
③成果面	拡大	○	
	維持		
	減少		

---

**③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)**

該当項目「1」入力(注:平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)

拡大	1	維持		減少	
----	---	----	--	----	--

(判定理由) 第一四半期のコンベンション開催件数はほぼ例年並であるものの、国際会議件数が増えているため。

コスト・成果ポジション

**B**

**第2水準**

---

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」 → I 「良い」 良好な水準を維持

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」 → II 「やや良い」 「I」の水準に向けた改善が必要

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」 → III 「普通」 「II」の水準に向けた改善が必要

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」 → IV 「やや良くない」 「III」の水準に向けた改善が必要

目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」 → V 「良くない」 「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

一次評価 主管課

評価区分

**II**

判断の理由

一層「コンベンション」の意図を満たした事業とするための見直しが必要であるため。

---

**分析・評価(Check)により明らかになった課題・問題点**

- より「コンベンション」の意図を満たした事業としていくため、一定条件の設定が必要
- 飛騨・高山観光コンベンション協会や民間事業者と連携した積極的な誘致活動が必要

**総合評価**

コスト	成果	評価区分
中	高	II

---

**5 今後の方向性(Action)**

評価結果に対する改善提案(下記チェック)

現状維持 ■ 改善・継続 ■ 終期設定 ■ 休止 ■ 廃止 ■ 完了

活動の方針

・周辺市町村の実施状況について、情報収集を行う。

・一定条件の設定について、飛騨・高山観光コンベンション協会と検討する。

・民間事業者(ホテル・旅館)へのコンベンション事業説明と連携誘致の協議

次年度の実施方針

積極的なコンベンションに関するPRや大学等への営業などの誘致活動を飛騨・高山観光コンベンション協会や民間事業者と連携して行う。

観光面とセットにした戦略的なコンベンション誘致の検討を行う。

判断の理由等

**「I」の水準に向けた改善が必要**

東海北陸自動車道の全線開通など高速交通網の発達に伴う利便性の向上により、コンベンションの誘致に係る条件は良くなっている。また、平成26年に予定されている北陸新幹線の富山までの開通も念頭に、観光面とセットにした戦略的なコンベンションの誘致が必要である。